



2004 年度第 4 号

# やまなみ

## サンフランシスコ日本語補習校 理事会通信

2004 年 7 月 2 日

### 高等部の将来について (1)

従前よりの最重要課題で今年度中の解決を迫られていることのひとつである「高等部」問題に関する審議が 6 月 17 日開催の第 2 回理事会で集中して行われました。高等部の将来に関して重要な決定をする時期が差し迫っています。

「やまなみ」では 2 回にわたり高等部の将来についてお知らせします。まず、今月号では現状とこれまでの検討の結果などをお知らせします。次号ではその現状認識に基づいて今後とるべき方策についてお知らせする予定です。

まず下の「囲み」に要点を示し、以下詳しく説明します。

文部科学省からの「通知」により、来年度から派遣教員が高等部の教育に携わらなくなります。しかし、現在、高等部 1 年には生徒が在籍していますし、アンケート結果に見られるように高等部への需要は将来もあると考えられます。したがって、現在直面している課題は、「存続か廃止か」を問うことではなく、どのような方法で来年度以降続けるか、具体的方策を見出すということに要約されます。つまり、今年度は、(1) 高等部校長、教頭などの人材発掘、(2) 中・高分離後の教員配置、(3) 増大必至の件費と授業料の調整、(4) 派遣教員からの引継ぎの 4 点に解決策を見出して来年度高等部をスムーズに継続することが焦眉の急です。

#### 発端と経緯

高等部再検討は 2 つのきっかけで始まりました。1 つは内部からのもので、2001 年度第 5 回理事会において経営上の問題として、高等部単独では赤字運営であり存続すべきかという問題提起がなされました。2 つめは、後述のように文部科学省初等中等教育局国際教育課長からの通知 (2002 年 10 月 11 日付) により、派遣教員が高等部教育に関することを禁じられたことです。より重要で決定的な意味を持つのは後者です。

これらを受けて、2002 年度第 4 回理事会では、「高等部運営に関するお知らせ」を保護者に配布し、現地採用教員に事前に知らせた上で高等部運営に関する説明会を行う事を決定しました。

説明会は 2003 年 1 月 25 日に中高部 SJ 校 (午前) と SF 校 (午後) で開催されました。説明会において、専任の管理者を置くことと授業料値上げに関して一定の理解は得たものの現状のまま存続して欲しいとの意見も多数ありまし

た。授業料等については小学部保護者の意見も聞く必要があると認識されました。

2003 年度は小中高全保護者を対象にアンケートを実施しました (後述参照)。また、2005 年度から新体制へ移行することを視野に入れて 2004 年度中に行うべき検討項目が抽出されました。

#### 文部科学省からの「通知」の持つ意味

ここで、簡単に「補習校」の法的地位と日本国政府からの支援・補助の状況を確認したいと思います。

「補習校」(正式には「補習授業校」と呼ばれます)は、日本人学校、私立在外教育施設と並び、「在外教育施設」のひとつです。在外教育施設とは、海外に在留する日本人の子どものために、学校教育法に規定する学校における教育に準じた教育を実施することを主たる目的として海外に設置された教育施設をいいます。

「日本人学校」と「補習校」との違いですが、「日本人学校」が、文部科学大臣から国内の小学校または中学校と同等の教育課程を有すると認定されている全日制の教育施設であることに対して、「補習校」は、現地校・国際学校 (インターナショナルスクール) 等に通学している日本人の子どもに対し、土曜日や放課後等を利用して、国内の小学校又は中学校の一部の教科について日本語で授業を行う教育施設です。

両者とも、現地の日本人会や商工会議所等が設置主体となり、運営は、企業や在外公館職員、保護者の代表等からなる学校運営委員会 (本校では「理事会」と呼びます) によって行われています。

これらの在外教育施設は、さまざまな形で、日本国政府からの補助を得ています。本校の場合、具体的には、外務省から校舎賃借料の一部および現地採用講師の給与の一部の補助を受けています。また、文部科学省からは、学校長および 4 名の教頭先生の教員派遣を受けています。派遣に伴う経費は文部科学省と派遣元の都道府県等が負担します。

補習校の派遣教員の人数の規定は、100 人の生徒がいて始めて 1 人の派遣教員が認められ、あとは 400 人刻みで 1 名となっています。本校の児童・生徒数は現在 1300 名余ですので、本来最大 4 名の派遣であるところ本校の現状を学校長から文部科学省に説明いただき、理事会よりの嘆願書を添えてお願いし現在は 5 名派遣体制となっています。

さて、補習校は原則として日本の義務教育 (小学校・中学校) をカバーするものですが、中には本校のように高等部

を併設したり、幼稚部を併設している学校もあります。ただ、文部省からの派遣教員の職務は、補習校設立目的や教員派遣目的から小学校・中学校の校務に限定されます。後述する文部科学省初等中等教育局からの通知はそれを裏付けるものです。

これまで、当校の実情に応じ、併設されている高等部についても、派遣教員の先生方には学校長・中高部教頭として校務をみていただいておりますところ、2002 年 10 月 11 日付の文部科学省初等中等教育局国際教育課長名で、「委嘱を受けた職」以外の職 (たとえば高等部の学校長・教頭としての職務) の兼務を禁止する通知が出されました。

学校長・教頭先生方には、本校の実情に鑑みて、混乱のない緩やかな業務移行を図るべくこれまで特段の配慮を頂き、「通知」後も引き続き高等部の校務にもあたっていただいていたのですが、理事会として、これ以上変則的勤務を強いることもできないと判断しています。

#### 高等部での教育の現状

小中と同じく、現在の高等部運営の基本方針、教育目標、目指す学校像などは、「学校便覧」に明記されています。なかでも、「本年度の重点課題」は、①国語力を中心に基礎学力の確実な定着を図る、②子どもの個性を引き出し、個に応じた対応を図る、③教育相談を充実させ、学校・家庭の連携・融合を図る、と設定されています。これは高等部にも適用されます。

高等部の授業内容は次のようになっています。

- ①平成 16 年度の年間授業時数は 47 日間 (毎土曜日と集中学習 10 日間)。
- ②国語、表現、選択教科 (数学または社会) の 3 科目。
- ③文部科学省検定済み教科書の中から本校の実態に即したものを採択し、日本の公教育に準じた教育を行う。

年間授業日数が少ないため学習内容の精選化と重点化が派遣教員の指導により行われ、実際の教育計画が樹てられます。1 授業日あたりの教科の授業時間配分は以下のようになっています。

高等部	国語	表現	選択 (数・社)	合計
1 年	2	2	2	6
2 年	2	2	2	6

このような教育を行うため、今年度は高 SF 校 31 名、高 SJ 校 22 名の生徒に対して次のような教員の配置となっています。

中高部 SF 校  
高等部のみ 1 名 (4 時間)

中・高兼任 5名(中2時間、高2時間)  
 中上部 SJ 校  
 高等部のみ 1名(4時間)  
 中・高兼任 4名(中2時間、高2時間)  
 補習授業校への派遣教員は、「当該校の教育の充実に資するための基幹要員」として派遣されており「管理職」です。校長の監督の下で当たる職務内容は、ア、教育課程の編成及び進行管理に関すること  
 イ、学校行事の実施計画の策定及び実施に関すること  
 ウ、児童・生徒の転出入に伴う学籍の管理に関すること  
 エ、進路指導及び教育相談に関すること  
 オ、現地採用教員に対する指導・助言及び研修の実施に関すること  
 カ、教材教具の整備計画の策定に関すること  
 キ、教材教具の開発に関することと規定されています。  
 派遣教員は現在上記の各項の職務を高等部に対しても遂行しています。来年度高等部が派遣教員の指導を受けない体制に移行すると、これらの職務を遂行する人材を確保することが必要となります。

#### 財務・経営の現状

現在、小学1、2年生は月100ドル、小学3年から中学3年生までは月110ドル、高校生は月130ドルの授業料を納入いただいています。

学年が進むに従い生徒数が減少する一方、必要な教員の数など生徒数にかかわらず必要となる固定的な経費があるため、中学部、高等部と上に行くほど収支が悪化します。

現在、高等部は独立して収支バランスを取ると赤字運営となっています。来年度独立運営となれば、教職員の増員等も必要となり、授業料の相応の値上げは避けられないのが実情です。例えば、現状ではSF校とSJ校で高等部に53名在籍していますが、この状態で1万ドル経費増があつてそれを授業料に転嫁した場合、一人当たり、一月当たり17ドルの増加となります。

適正な授業料の算出には多くの因子を考慮する必要があります。授業料を適正なレベルに抑えつつ中身の濃い教育を実現するといういわば相反する制約条件の下で最適解を求めるといふ難しい作業ですが、理事会で鋭意検討中です。進展あり次第、本紙面にてお知らせいたします。

#### 昨年度保護者アンケートの結果

2003年度理事会では、2002年度中の検討・議論を踏まえ、本校全保護者に向けてアンケートを行いました。個別自由意見等を含めた詳細については本校ホームページ(<http://www.sfjlc.com/>)にて確認願います。854の回答があり、回収率は68%でした。アンケート結果の概要は以下のとおりです。  
 ○高等部生徒数は全校児童・生徒数の

3%を占める。  
 ○高等部進学時まで当地に住んでいる可能性が高いと考える世帯の比率は54%。その内、授業料等の条件付も含め高等部まで進学させたいと考える世帯は54%。  
 ○「現在の状況を維持できれば進学」が39%。「授業料が値上げとなっても進学」が21%。「高等部授業の中身の充実次第」が37%。  
 ○進学をさせない理由として「補習校は中学校程度で良い」が一番多く、63%。  
 ○授業料値上げの月負担可能範囲は\$200未満が一番多く、58%。  
 ○コストアップの一部負担について、「高等部在籍の保護者が負担すべき」が42%。「ある程度の負担はやむを得ない」が21%。「負担する金額にもよる」が37%。

このように、高等部にかかわる保護者の意見・考えは、多様であることが見て取れます。一方で、上記の結果から、解決すべき課題は多いものの、現行の高等部の生徒数と同程度、あるいは経営努力次第ではそれ以上の高等部存続に対する潜在的需要があることが推測されます。

\*\*\*\*\*

#### 理事交代

帰国に伴い退任 結城 仁 6/17付  
 就任 佐藤隆志 6/18付

#### 理事就任のご挨拶

佐藤隆志



4月と6月の理事会にオブザーバーとして出席し、現在抱えている課題が数多くある中、長時間にわたり熱心に検討、議論されている理事の皆様を目の前にし、とても気の引き締まる思いが致します。一日も早く補習校運営に貢献できるよう全力で頑張りますのでなにとぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 人事異動

退職 小SJ 手塚あかり (6/5付)  
 採用 小SJ 八木悦子 (6/19付)

\*\*\*\*\*

#### 小SJ校夏期集中学習期間中の工事について

6月19日、22日付で「借用校の工事のお知らせ」が学校長よりありました。理事会からも22日、28日に工事に関するお知らせをしました。  
 集中学習が始まる直前の6月16日にクパティーンユニオンスクールディストリクト(以後、学校区という)より本校事務局に工事の第一報が入りました。18日と21日に学校区関係者と話し合いを行うべく、現場に青柳事務局長が急行

いたしました。現場ではすでに工事が着手されており、重機などを使って地面を掘り起こすなど、大掛かりな工事内容となっていました。学校区の説明により、州政府から会計年度末に急遽学校区に提示された補助金を確保するため、この時期の着工と工事の継続が必要とのことでした。

理事会といたしましては、

1. 急な通告で代替校舎が見つからない、
  2. 学校区との話し合いの結果、当局が安全面等において最善の配慮と努力を行うとの確約を得た、
- の2点に基づき、当初予定通りの期間と校舎で集中学習を実施する判断を下しました。

弁護士などの専門家に相談しながら安全で静寂な学習環境を実現するよう求める交渉を続けた結果、学校区責任者及び工事責任者から、騒音のひどい工事や化学薬品を使う作業については、集中学習終了まで延期し、その他の部分でも工事続行を、児童が活動する範囲外3カ所に限定することができました。環境安全確保については、学校区がモニタリングも含めて責任をもって行うことを確約しました。理事会からは砂ぼこり防止用のマスクとうがい用の水を職員室に常備するよう手配をしました。

この間、保護者の皆様、子供たちには多大なご心配とご不便をかけたこととお詫び申し上げます。また、校長先生、夏越教頭先生、現場の先生方に多大のご協力いただいたことにお礼を申し上げます。青柳事務局長は連日現場で学校区・工事責任者と直接交渉に当たり、被害をできるだけ小さくすることに腐心していただきました。

皆様のご協力で夏期集中学習期間最終日を本日迎えることができましたこと、理事会よりお礼申し上げます。

なお、今回の経緯については学校の安全確保の貴重な経験として後日理事会総務委員会でご再検討する予定です。

#### 事務局よりお知らせ

##### 夏休み期間中の事務局休暇日について

集中学習以後の夏休み期間中、事務局は通常、月曜日から金曜日までオープンしております。

8月2日(月)～6日(金)の期間中、お休みを頂きますのでご了承ください。

「やまなみ」はサンフランシスコ日本語補習校理事会により月1回発行されます。  
 発行人：山崎啓二  
 San Francisco Japanese Language Class, Inc.,  
 760 Market Street, #816, San Francisco, CA 94102  
 電話：415-989-4535 FAX：415-989-2542  
 理事会・事務局 office@sfjlc.com,  
 学校 sfjlc@msn.com,  
 ホームページ：http://sfjlc.com  
 理事会および学校事務局へのご意見・ご質問等を歓迎します。匿名でのお問合せ等には一切お答えしかねます。  
 無断複製・転載を禁ずる。©2004 All rights reserved.